

平成 24 年度 第 2 回経営学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

- I. 日 時：平成 24 年 7 月 12 日（木）午後 6 時 30 分～午後 8 時 45 分
- II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室
- III. 出席者：大塚晴之委員長、佐々木利廣副委員長（ネット参加）、岩井千明委員（ネット参加）、佐藤修委員、日置慎治委員（ネット参加）、安田英土委員（事務局）井端事務局長、森下主幹、松本職員

IV. 議事概要

1. 教育改善モデル実現に求められる教育力
 2. 教育力を実現するための FD 活動と大学としての課題
- の二点について検討を行った。

「1. 教育改善モデル実現に求められる教育力」について

・前回委員会で決定した「経営学教員に期待される学識」と文言面・内容面の重複は極力避ける。

・教育改善モデル（その 1）と（その 2）を実現するために必要な教育力とは何か。

上記二つの観点から、経営学教育に求められる教育力について検討・審議を行った。

主な意見として

・提示された原案については、「経営学教員に期待される専門性」と文言が重複する部分も多い。→原案に基づいて、表現を修正していく。

・学生に異なる主体の社会的責任を分からせるために、教員は複眼的視点から整理できる能力が必要。

・企業活動の一端を学生に理解させる能力が必要。また、選択肢を考えるなど多様な意見を整理できる能力は必要だろう。

・学生に、理論と現実の接点を理解させようとする思いが教員側には必要。

・連携して教材コンテンツ作りができる意識を教員が持ち、これを共有できる能力も必要。

等の意見が出された。

以上の意見交換・検討の結果、委員長原案を以下のように取りまとめた。

- ① 企業活動の実情を理解させるため、問題を可視化して、整理・提示できること。
- ② 問題が発生した時に当事者としてどのように行動するかを考えさせ、学生の意見を分類・整理し、問題の論点を再提示できること。
- ③ ケーススタディやビジネスシミュレーションを用いて経営の実態に関心を持たせることができる。
- ④ 他の教員や実務家と積極的に協働して、多様な経営知識を統合した教育コンテンツ作りや連携授業などの運営に参画できること。
- ⑤ ICT を用いて学習成果を隣接諸科学の教員や社会に発信し、評価コメントを受けられる

ように支援できること。

「2. 教育力を実現するためのFD活動と大学としての課題」

・本日の第一の検討議題「1. 教育改善モデル実現に求められる教育力」を実現するために、FDとしてどのような取り組みが必要なのか。また、大学としてどのような取り組み・支援が必要なのか、といった方針に基づいて検討を行った。

主な意見として、

・委員から海外の大学で行われているティーチングメソッド講習の例などが紹介された。
・教員の自主性に任せた研修ではなく、大学側が教育手法の研修制度を定め、参加を強制しなければ、教員の教育力向上には繋がりにくい。

・「1. 教育改善モデル実現に求められる教育力」①、②、⑤を実現するために、ワークショップを取り入れる必要がある。ただし、学内での実施は難しく、海外のティーチングメソッド講習などに参加することや大学間連携による相互授業参観なども必要だろう。

といった意見がだされた。

検討方針に基づき意見を集約した結果、本日は、以下のように取りまとめられた。(次回へ継続審議)

(1) FD活動について

- ① 企業活動の実態を事例として授業で活用できるようにするため、学内外でワークショップを行う必要がある。
- ② 経営学分野で他大学との相互授業参観を定期的に行う必要がある。

(2) 大学としての課題

- ① 大学としてオフィシャルなティーチングメソッド向上のための制度づくりが必要。

V. 今後の予定

次回、今年度第三回委員会は、8月1日水曜日 17:30～私立大学情報教育協会事務局会議室で行うことになった。「教育力を実現するためのFD活動と大学としての課題」について、更なる審議を行う予定。

以上